

第 **17** 期 中間報告書

株主のみなさまへ

2018年4月1日～2018年9月30日



INDEX

トップメッセージ	1
事業の概要	3
バイオニュース	4
連結財務状況	5
株式情報・会社概要	6

タカラバイオ株式会社

証券コード:4974

グローバル企業かつ再生医療等製品企業としての プレゼンスを向上させ、飛躍的成長を目指していきます。



代表取締役社長
仲尾 功一

2019年3月期第2四半期連結累計期間の 業績について

株主の皆様には平素より格別のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費の回復や企業収益の改善により、緩やかな回復が続いておりますが、原油・原材料価格の高騰や米国発の貿易摩擦問題が懸念され、景気の先行き不透明感はぬぐえていない状況であります。

このような状況のもと、当社グループは、2018年3月期よりスタートした3ヵ年の中期経営計画「タカラバイオ中期経営計画2019」において、「<バイオ産業支援事業>、<遺伝子医療事業>、<医食品バイオ事業>の3つの事業部門戦略の推進とこれを支える経営基盤を強化し、グローバル企業かつ再生医療等製品企業としてのプレゼンスを向上させ、飛躍的な成長を目指す」ことを全体方針とし、上方修正した最終年度営業利益目標6,000百万円を実現するための取り組みを推進いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、主力の研究用試薬が前年同期比で増加したことに加え、日本におけるNY-ESO-1・siTCR®遺伝子治療薬およびCD19・CAR遺伝子治療薬に関する共同開発・独占販売契約にかかる対価料の受領等により、17,370百万円(前年同期比123.0%)と増収となりました。売上原価は、売上高の増加により、7,049百万円(前年同期比118.2%)となりましたので、売上総利益は、10,321百万円(前年同期比126.5%)となりました。販売費及び一般管理費は、人件費等が増加し、7,697百万円(前年同期比103.0%)となりましたが、営業利益は、2,623百万円(前年同期比380.9%)と増益となりました。

営業利益の増益にともない、経常利益は、2,669百万円(前年同期比348.5%)、税金等調整前四半期純利益は、2,436百万円(前年同期比325.0%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、1,720百万円(前年同期比568.5%)と増益となりました。

3つの事業部門

安定収益

バイオ産業支援事業

国産初の制限酵素(遺伝子工学研究用試薬)を発売。現在は、研究支援分野とCDMO分野の双方で世界中のバイオ研究者に高品質な製品・サービスを提供しています。

バイオ産業支援事業の製品・サービス

- 研究用試薬・理化学機器
- 研究/製造受託サービス

将来の成長

遺伝子医療事業

高効率に遺伝子導入するレトロネクチン®法などを基盤技術としてがんなどの遺伝子治療の早期商業化を目指し、臨床開発プロジェクトを推進しています。

進行中の臨床開発プロジェクト

- 腫瘍溶解性ウイルスC-REV(HF10)
- NY-ESO-1・siTCR®遺伝子治療薬
- CD19・CAR遺伝子治療薬

安定成長

医食品バイオ事業

バイオ技術を駆使して食品の機能性を解明するとともに、キノコの大規模栽培技術を活かした事業を展開しています。

医食品バイオ事業の製品

- 食品の機能性研究
- キノコ

■ 選択と集中を推進

2019年1月1日を効力発生日として、当社グループが行う健康食品事業を、会社分割(簡易吸収分割)の方法によりシオノギヘルスケア株式会社(以下、「シオノギヘルスケア社」)に承継することを9月20日開催の取締役会で決議しました。

当社グループでは、タカラバイオ中期経営計画2019のもと、成長戦略に即し、業務を推進してまいりましたが、直近の計画の進捗状況を鑑み、一層の経営資源の選択と集中を行い、計画を確実に達成して企業価値を向上させることが重要であると考えに至りました。このような理由から、健康食品事業においては、これまでに蓄積した研究成果等の事業資産を最大限に活用し事業を継続いただける譲渡先を検討しておりました。塩野義製薬グループのシオノギヘルスケア社においては、健康食品事業強化を掲げていたため、同社を交渉先とし、当社グループの健康食品事業の承継を両者で検討したところ、両者の戦略が一致し、このたびの会社分割による組織再編を行うことといたしました。

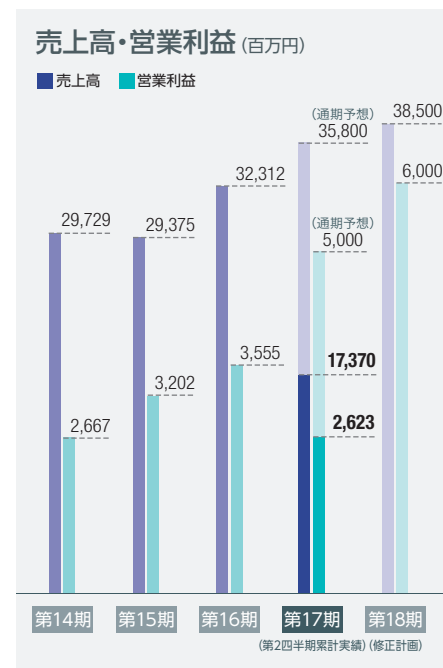
■ 通期の業績予想について

通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績および直近の状況を踏まえ、2018年5月11日に公表いたしました業績予想を修正しております。

売上高は、遺伝子医療事業が計画を上回る見込みであります。バイオ産業支援事業および医食品バイオ事業が計画未達となる見込みでありますので、全体では期初予想を下方修正しております。

利益面につきましては、売上高の計画未達にもない売上総利益は計画を下回るものの、販売費及び一般管理費全般にわたり圧縮に努めることで、これを吸収できる見込みであることから、期初予想を据え置いております。

当社は、今後も皆様のご期待に応えるため、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。引き続き一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



「タカラバイオ中期経営計画2019」(2018年5月修正)

全体方針

「バイオ産業支援事業」、「遺伝子医療事業」、「医食品バイオ事業」の3つの事業部門戦略の推進とこれを支える経営基盤を強化し、グローバル企業かつ再生医療等製品企業としてのプレゼンスを向上させ、飛躍的な成長を目指します

中期経営計画の進捗状況

	事業目標	施策など状況
バイオ産業支援事業	再生医療等製品関連CDMO事業No.1の堅持	<ul style="list-style-type: none"> 新施設建設中(2019年12月稼働予定) 海外買収2社のシナジーの最大化
遺伝子医療事業	遺伝子治療薬の承認取得	<ul style="list-style-type: none"> C-REV国内承認申請準備中 遺伝子改変T細胞療法臨床開発推進
医食品バイオ事業	安定的な営業黒字の継続	<ul style="list-style-type: none"> 健康食品事業:事業譲渡を計画 キノコ事業:製販一体化推進

上方修正後定量目標

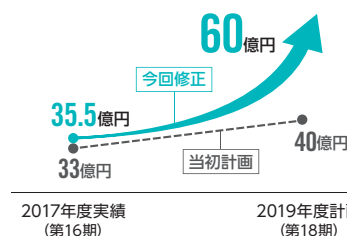
売上高 **385** 億円

営業利益 **60** 億円

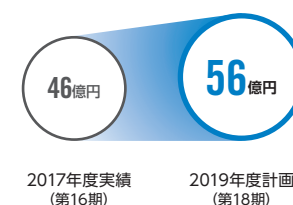
研究開発費 **56** 億円

修正のポイント

■ 目標営業利益を前倒しで達成見込み

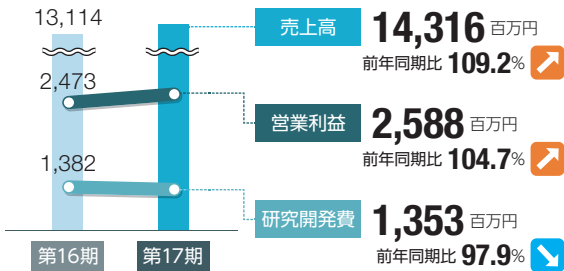


■ 研究開発費を増額し、研究基盤を強化



バイオ産業支援事業

第2四半期累計業績



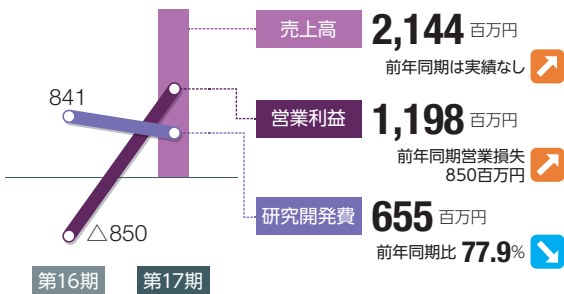
バイオテクノロジー関連分野の研究開発活動がますます広がりを見せるなか、当社グループは、こうした研究開発活動を支援する製品・商品やサービスを中心に展開する当事業をコビジネスと位置づけています。当第2四半期連結累計期間は、受託サービスの売上高が前年同期比で減少しましたが、研究用試薬と理化学機器の売上高が前年同期比で増加しました。以上の結果、当事業の外部顧客に対する売上高は、14,316百万円と増収となりました。売上総利益は、品目別の売上構成の変化等により原価率が上昇し、8,311百万円となりました。販売費及び一般管理費は、人件費等の増加により5,722百万円となりましたが、営業利益は、2,588百万円と増益となりました。



研究用試薬

遺伝子医療事業

第2四半期累計業績



がんなどの疾患を対象とし、腫瘍溶解性ウイルスcanerpturev (略称C-REV、旧称HF10) や、独自技術である高効率遺伝子導入技術レトロネクチン®法、高効率リンパ球増殖技術であるレトロネクチン拡大培養法、siTCR®技術を使用した遺伝子改変T細胞療法等の遺伝子治療法の開発を進めています。当第2四半期連結累計期間は、日本におけるNY-ESO-1・siTCR遺伝子治療薬およびCD19・CAR遺伝子治療薬に関する共同開発・独占販売契約にかかる対価料および本契約に基づく試験製品等の売上高を計上しました。以上の結果、当事業の外部顧客に対する売上高は、2,144百万円と増収となり、売上総利益は、1,862百万円となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費の減少により664百万円となり、営業利益は、1,198百万円と大幅に改善しました。

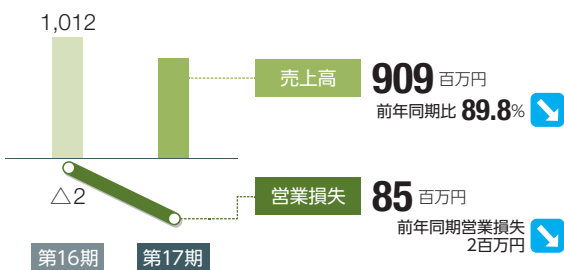
主要プロジェクトの開発状況 (2018年11月現在)

プロジェクト	対象疾患	状況	提携		
腫瘍溶解性ウイルス	日本	悪性黒色腫	Phase II 進行中 承認申請準備中	大塚製薬(株)	
	日本	肺癌がん	Phase I 進行中	大塚製薬(株)	
	韓国	全疾患	検討中	Dong-A ST Co., Ltd.	
	米国	悪性黒色腫	医師主導治験 ^{※1} Phase II 進行中	検討中	
遺伝子改変T細胞療法	siTCR®	NY-ESO-1 (TBI-1301)	日本 滑膜肉腫	Phase I/II 進行中	大塚製薬(株)
		適応拡大	検討中	大塚製薬(株)	
	CAR	CD19 (TBI-1501)	カナダ 固形がん	医師主導治験 ^{※1} Phase I b 進行中	検討中
		成人ALL ^{※2}	日本 適応拡大	Phase I/II 進行中	大塚製薬(株)

※1 医師主導治験: investigator-initiated clinical trial ※2 ALL: 急性リンパ芽球性白血病

医食品バイオ事業

第2四半期累計業績



独自の先端バイオテクノロジーを駆使して食物の科学的根拠を明確にした機能性食品素材の開発、製造および販売を行っており、ガゴメ昆布フコイダン関連製品、寒天アガロオリゴ糖関連製品、明日葉カルコン関連製品、ボタンボウフウイソサミン関連製品、ヤマイモヤムスゲニン関連製品およびキノコ関連製品等を中心に事業を展開しています。当第2四半期連結累計期間は、キノコ関連製品の売上高がほぼ前年同期並みでしたが、健康食品関連製品の売上高が前年同期比で減少しました。以上の結果、当事業の外部顧客に対する売上高は、909百万円と減収となり、売上総利益は、147百万円となりました。販売費及び一般管理費は、ほぼ前年同期並みの232百万円となり、営業損失は、85百万円と悪化しました。



ホンシメジとハタケシメジ

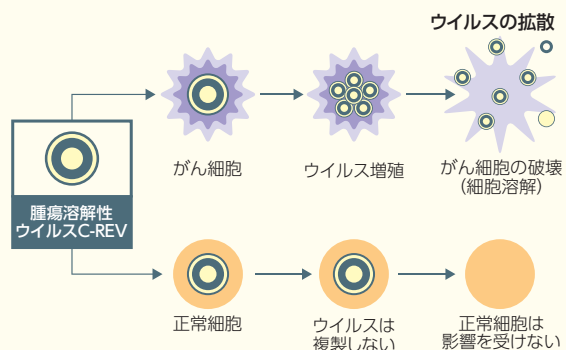
遺伝子医療事業

韓国企業と腫瘍溶解性ウイルスC-REVに関するライセンス契約を締結

タカラバイオは、大韓民国のDong-A ST Co., Ltd. (以下「東亜ST」)に対し、腫瘍溶解性ウイルスC-REVの同国における独占的開発および販売を許諾するライセンス契約を、2018年8月22日付で締結しました。本契約に基づき、東亜STは今後、大韓民国でC-REVの臨床開発を独占的に進めます。また、製造販売承認の取得後は、C-REVを同国内で独占的に販売します。一方、当社はC-REVの製造権を保持し、東亜STに対し製剤を有償提供します。

本契約締結にともない、当社は東亜STより契約一時金および開発進捗に応じたマイルストーン達成金を受領します。また、上市後は、東亜STに製剤を有償で供給するほか、売上高目標達成金ならびにランニングロイヤリティを受領します。上記の契約一時金および各達成金は合計で最大約3億円となります。

腫瘍溶解性ウイルスC-REVによるがん治療の仕組み



遺伝子医療事業

レトロネクチン®の商業利用ライセンスを新たに第一三共株式会社へ供与

タカラバイオは、当社が保有するレトロネクチンに関する特許を第一三共株式会社 (以下「第一三共」) が商業利用し、当社がレトロネクチン製品を安定的に供給・販売する契約を、2018年9月に締結しました。これにより、レトロネクチンに関する特許の商業利用のライセンス先は11社になりました。

今回の契約により、当社は第一三共に対し、同社が日本国内で開発を進める細胞・遺伝子治療製品axicabtagene ciloleucelの治験および商用製造におけるレトロネクチン関連特許の利用を許諾するとともに、当該目的で使用されるレトロネクチンを安定的に供給・販売します。当社は、レトロネクチン販売にともなう売上加え、本ライセンス・供給への対価を受領します。

本契約で第一三共へライセンスした特許技術は、「レトロネクチン法」(レトロウイルス※1ベクター等による細胞への遺伝子導入時に、レトロネクチンを用いて遺伝子導入効率を向上させる技術)と、「レトロネクチン拡大培養法」(レトロネクチンと抗CD3抗体※2を用いてT細胞を効率よく増殖させる技術)です。これらの技術を組み合わせることにより、治療用の遺伝子導入細胞を、大量に効率よく作製することができます。

※1 レトロウイルス

ウイルスの一種で、遺伝子治療の際の遺伝子導入用ベクター(レトロウイルスベクター)として広く用いられます。

※2 抗CD3抗体

免疫機能を司るT細胞に存在する表面抗原分子の一つであるCD3分子を特異的に認識する抗体です。抗CD3抗体がT細胞のCD3分子に結合すると、T細胞が活性化、増殖すると考えられています。

バイオ産業支援事業

次世代シーケンサー向け超微量DNA解析キットを販売開始

2018年9月より、シングルセル(1細胞)※3由来の超微量DNAなどを次世代シーケンサーで解析するための研究用試薬[SMARTer® PicoPLEX® Gold Single Cell DNA-Seq Kit]の販売を開始しました。本製品は、旧Rubicon Genomics社(現Takara Bio USA社に吸収合併)が保有する超微量DNA解析技術PicoPLEXと、当社グループが保有する超微量遺伝子解析技術のシナジーにより生み出された製品です。

本製品の使用により、細胞中の超微量DNAを出発材料として、次世代シーケンサー解析用に高精度なDNAライブラリーを短時間で簡単に調製することが可能になります。また、1回の操作で網羅的に多くのDNA変異を検出できるため、超微量DNA解析に最適です。本製品により、遺伝子検査の感度が大きく向上し、がん診断をはじめクリニカル領域での貢献が期待されます。

※3 シングルセル解析

細胞集団の平均的な解析ではなく、1細胞レベルでDNA(ゲノム)配列やRNA配列解析を行うことをシングルセル(1細胞)解析と呼びます。発がんメカニズムの解明やiPS細胞に代表される再生医療用細胞の品質評価などにシングルセル解析が用いられます。



SMARTer® PicoPLEX® Gold Single Cell DNA-Seq Kit

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2018年3月31日現在	当第2四半期 2018年9月30日現在
資産の部		
流動資産	34,516	35,420
① 現金及び預金	17,537	19,111
② 受取手形及び売掛金	8,031	6,774
有価証券	2,000	2,000
たな卸資産	6,011	6,682
その他	978	898
貸倒引当金	△ 42	△ 45
固定資産	34,154	33,256
有形固定資産	18,534	18,509
建物及び構築物	7,214	6,942
機械装置及び運搬具	2,201	2,071
工具、器具及び備品	2,466	2,195
土地	6,588	6,585
リース資産	-	-
建設仮勘定	63	713
無形固定資産	14,163	13,209
のれん	8,259	7,824
その他	5,903	5,384
投資その他の資産	1,456	1,537
資産合計	68,670	68,677

科目	前連結会計年度 2018年3月31日現在	当第2四半期 2018年9月30日現在
負債の部		
流動負債	5,745	5,442
支払手形及び買掛金	1,875	1,555
未払法人税等	431	618
引当金	333	556
その他	3,104	2,712
固定負債	966	967
退職給付に係る負債	659	668
その他	307	298
負債合計	6,711	6,409
純資産の部		
株主資本	60,144	61,323
資本金	14,965	14,965
資本剰余金	32,893	32,893
利益剰余金	12,285	13,464
その他の包括利益累計額	1,707	848
為替換算調整勘定	2,042	1,168
退職給付に係る調整累計額	△ 334	△ 320
非支配株主持分	106	95
純資産合計	61,959	62,267
負債純資産合計	68,670	68,677

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	当第2四半期累計 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
売上高	14,126	17,370
売上原価	5,965	7,049
売上総利益	8,160	10,321
販売費及び一般管理費	7,471	7,697
営業利益	688	2,623
営業外収益	129	98
受取利息	40	43
補助金収入	1	2
為替差益	23	-
不動産賃貸料	43	45
その他	20	7
営業外費用	52	52
支払利息	6	-
為替差損	-	24
休止固定資産費用	29	4
不動産賃貸費用	15	20
その他	1	2
経常利益	766	2,669
特別利益	0	0
固定資産売却益	0	0
特別損失	16	233
固定資産除売却損	16	63
① 災害による損失	-	128
減損損失	-	41
税金等調整前四半期純利益	749	2,436
法人税、住民税及び事業税	406	862
法人税等調整額	43	△ 144
法人税等合計	450	718
四半期純利益	299	1,717
非支配株主に帰属する四半期純利益	△ 3	△ 2
親会社株主に帰属する四半期純利益	302	1,720

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	当第2四半期累計 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
四半期純利益	299	1,717
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△ 692	△ 882
退職給付に係る調整額	26	14
その他の包括利益合計	△ 665	△ 867
四半期包括利益	△ 366	849
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△ 363	861
非支配株主に係る四半期包括利益	△ 2	△ 11

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	当第2四半期累計 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	410	3,713
① 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,619	△ 1,803
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 518	△ 540
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 289	△ 202
現金及び現金同等物の増減額	△ 13,016	1,166
現金及び現金同等物の期首残高	22,200	10,051
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,184	11,218

連結貸借対照表のPOINT

POINT ① 現金及び預金

受取手形及び売掛金の回収等による増加です。

POINT ② 受取手形及び売掛金

売上高の季節変動による減少です。

連結損益計算書のPOINT

POINT ① 災害による損失

台風・地震により被災したたな卸資産の廃棄等による損失です。

連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT

POINT ① 投資活動によるキャッシュ・フロー

前年同期に発生した連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出がなくなったことによるものです。

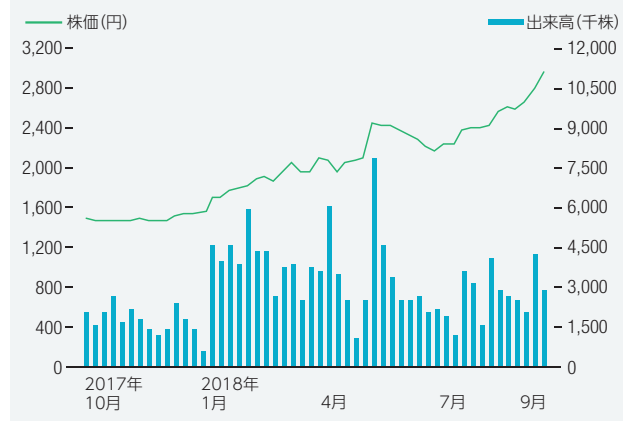
株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式総数	120,415,600 株
株主総数	35,337 名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
宝ホールディングス株式会社	73,350,000	60.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,226,500	3.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,396,500	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,020,200	0.85
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	1,006,300	0.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	820,300	0.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	762,400	0.63
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST (UK) LIMITED FOR SMT TRUSTEES (IRELAND) LIMITED FOR TOKIO MARINE JAPANESE EQUITY FOCUS CLT AC	707,500	0.59
JP MORGAN CHASE BANK 385151	676,644	0.56
GOVERNMENT OF NORWAY	629,500	0.52

株価と出来高 (2017年10月~2018年9月)



会社概要

商号	タカラバイオ株式会社 TAKARA BIO INC.
本店所在地	滋賀県草津市野路東七丁目4番38号 ☎077-565-6920(代表)・6970(IR担当)
設立年月日	2002年4月1日
資本金	149億6,582万8,496円
事業内容	研究用試薬・理化学機器などの製造・販売 受託サービス 遺伝子治療薬などの開発 キノコの生産・販売
従業員数	1,488名(タカラバイオグループ連結)

タカラバイオグループ会社

- 宝生物工程(大連)有限公司(中国 大連市)
研究用試薬の開発・製造・販売、受託サービス
- Takara Korea Biomedical Inc.(韓国 ソウル特別市)
研究用試薬・機器の販売
- 宝日医生物技術(北京)有限公司(中国 北京市)
研究用試薬の販売
- DSS Takara Bio India Private Limited(インド ニューデリー市)
研究用試薬の製造・販売
- Takara Bio USA Holdings Inc.(米国 マウンテンビュー市)
子会社の管理
- Takara Bio USA, Inc.(米国 マウンテンビュー市)
研究用試薬・機器の開発・販売
- Takara Bio Europe S.A.S.(フランス サンジェルマンアンレー市)
研究用試薬・機器の販売
- Takara Bio Europe AB(スウェーデン ヨーテボリ市)
研究用試薬の製造・販売、受託サービス
- 瑞穂農林株式会社(京都府船井郡京丹波町)
キノコの生産・販売
- 有限会社タカラバイオファーマリングセンター(鹿児島県熊毛郡屋久島町)
明日葉等の生産・販売
- 株式会社きのこセンター金武(沖縄県国頭郡金武町)
キノコの生産・販売

役員

取締役	
代表取締役社長 兼 社長執行役員	仲尾 功一
取締役会長	大宮 久
取締役副社長 兼 副社長執行役員	松崎 修一郎
常務取締役 兼 常務執行役員	峰野 純一
取締役 兼 常務執行役員	木村 正伸
取締役 兼 常務執行役員	宮村 毅
取締役(社外取締役)	ジャフハルラル・バハット
取締役(社外取締役)	河島 伸子
監査役	
常勤監査役	喜多 昭彦
常勤監査役	浅田 起代蔵
監査役(社外監査役)	鎌田 邦彦
監査役(社外監査役)	姫岩 康雄
監査役(社外監査役)	牧川 方昭
執行役員	
常務執行役員	浜岡 陽
常務執行役員	渡部 正治
常務執行役員	玉置 雅英
常務執行役員	山本 和樹
執行役員	佐野 睦
執行役員	日下部 克彦
執行役員	小寺 晃
執行役員	西脇 紀孝
執行役員	北川 正成

**ホームページでも
さまざまな情報を
発信しています。**

最新ニュースや企業情報、
事業内容などの情報をご
覧いただけます。

<http://www.takara-bio.co.jp>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4974
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 ホームページアドレス http://www.takara-bio.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 および特別口座 口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

株式に関するお問い合わせ先

以下の表をご覧ください。

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル) 受付時間 平日9時～17時 (土曜日、日曜日、祝祭日を除く)
マイナンバーのお届出に 関する電話お問い合わせ先		0120-84-0178 (フリーダイヤル) 受付時間 平日9時～17時 (土曜日、日曜日、祝祭日を除く)
各種手続お取扱店 (住所変更、配当金 受取方法の変更等)		みずほ信託銀行株式会社 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店 本店および全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) ※トラストラウンジでは、お取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 ※トラストラウンジでは、お取扱いできませんのでご了承ください。 株式会社みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほ証券では、取次のみとなります。)	
ご注意	支払明細発行については、右欄の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買はできません。株式売買のためには、証券会社にお取引口座を開設し、みずほ信託銀行の特別口座から株式の振替手続が必要となります。

■単元未満株式を保有されている方へ

単元未満株式(100株未満株式)をお持ちの場合、会社に対して買取の請求を行うことができます。

【お問い合わせ先】証券会社の口座で管理されている単元未満株式 ⇒ 口座を開設されている証券会社

特別口座で管理されている単元未満株式 ⇒ みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

口座振込による配当金受取のご案内

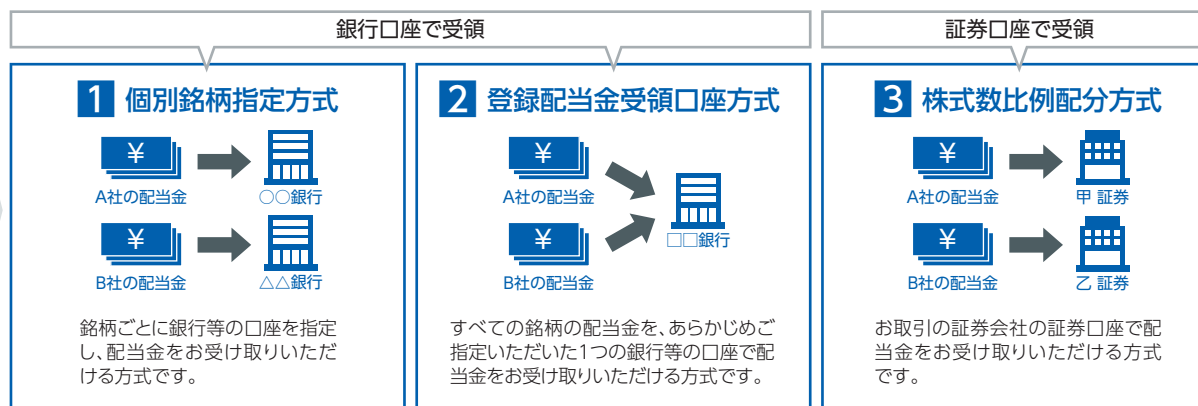
「配当金振込指定書」

をご提出いただくだけで、手続きが完了します。お手続きの詳細・お問い合わせは、お取引の証券会社へご連絡ください。(特別口座は除く)

配当金のもらい忘れがなくなります

銀行窓口に行く必要がありません

配当金のお受け取り方法は、左記の3つの方式からお選びいただけます。



タカラバイオ株式会社

〒525-0058 滋賀県草津市野路東七丁目4番38号
TEL: 077-565-6970
URL: <http://www.takara-bio.co.jp>

免責事項: 本報告書に記載されている通期の業績見通しなど将来についての事項は、予期しない経済状況の変化などさまざまな要因の影響を受けるためその結果について当社グループが保証するものではありません。

